

平成29年6月15日

平成28年における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成28年の山岳遭難は

○ 発生件数	2,495件	(前年対比-13件)
○ 遭難者	2,929人	(前年対比-114人)
うち死者・行方不明者	319人	(前年対比-16人)
負傷者	1,133人	(前年対比-18人)
無事救助	1,477人	(前年対比-80人)

であり、発生件数、遭難者数は、統計の残る昭和36年以降で前年に次いで過去2番目に高い数値を示した。

過去10年間の山岳遭難発生状況を見ると増減を繰り返しているが、平成25年以降の発生件数では、2,000件以上で推移しており、平成19年と比較すると

○ 発生件数	+1,011件	(+68.1%)
○ 遭難者	+1,121人	(+62.0%)
○ 死者・行方不明者	+60人	(+23.2%)

となっている。

(2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、最も多いのが長野県272件、次いで北海道206件、東京都151件であった。

2 特徴

(1) 目的別・態様別

遭難者2,929人について、目的別にみると、登山(ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む。)が71.7%と最も多く、次いで山菜・茸採りが13.2%を占めている。

また、態様別にみると、道迷いが38.1%と最も多く、次いで滑落が17.0%、転倒が16.1%を占めている。

(2) 年齢層別

遭難者のうち40歳以上が2,269人と77.5%、このうち、60歳以上が1,482人と50.6%を占めている。

また、死者・行方不明者では、40歳以上が289人と90.6%、このうち60歳以上が215人と67.4%を占めている。

(3) 単独登山者の遭難状況

単独登山(「山菜・茸採り」、「観光」等も含む。)における死者・行方不明

者は184人で、単独遭難者の18.6%を占めており、複数登山（2人以上）における遭難者のうち死者・行方不明者が占める割合（7.0%）と比較すると11.6ポイントの増加となっている。

(4) 通信手段の使用状況

発生件数2,495件の76.4%が遭難現場から通信手段（携帯電話、無線（アマチュア無線を含む。））を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請の増加が予想されるが、携帯電話は通話エリア内での救助要請手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意が必要である。

3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

○ 登山計画の作成

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配慮し、余裕のある安全な登山計画を立てる。

計画を立てるときは、滑落等の危険箇所を事前に把握する。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○ 登山計画書の提出

作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

○ 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

○ 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

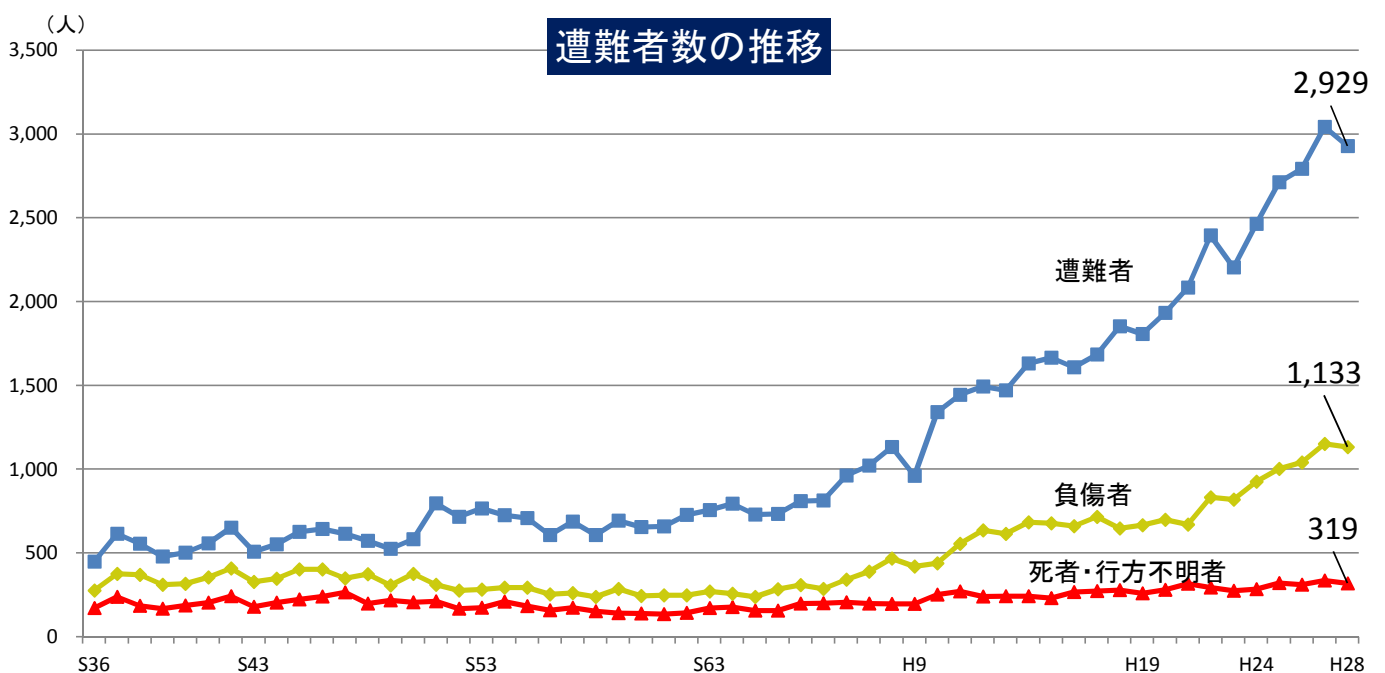
○ 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、道迷い、滑落等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

注：%は、小数点以下第2位を四捨五入（表1～8においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）。

表1 概要

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
											構成比
発生件数(件)	1,484	1,631	1,676	1,942	1,830	1,988	2,172	2,293	2,508	2,495	
遭難者数(人)	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	100.0%
死者・行方不明者	259	281	317	294	275	284	320	311	335	319	10.9%
死者	233	253	269	262	244	249	278	272	298	278	9.5%
行方不明者	26	28	48	32	31	35	42	39	37	41	1.4%
負傷者	666	698	670	832	819	927	1,003	1,041	1,151	1,133	38.7%
無事救出者	883	954	1,098	1,270	1,110	1,254	1,390	1,442	1,557	1,477	50.4%



注:「遭難者数」には、昭和51年から無事救出者を含む。

表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(平成28年)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	206	232	24	2	59	147
青森県	53	56	9	3	9	35
岩手県	43	48	1	1	24	22
宮城県	20	21	2		13	6
秋田県	68	92	13	1	13	65
山形県	72	76	8	1	32	35
福島県	70	82	9	3	33	37
東京都	151	167	14		65	88
茨城県	24	32	3		7	22
栃木県	36	39	8	1	23	7
群馬県	77	87	13	1	55	18
埼玉県	56	64	5	1	26	32
千葉県	13	18	1		6	11
神奈川県	111	137	14	2	46	75
新潟県	100	112	14	4	48	46
山梨県	149	160	25	1	93	41
長野県	272	303	43	6	150	104
静岡県	132	159	6		56	97
富山県	116	128	9	2	61	56
石川県	38	42	2	2	17	21
福井県	11	13	3		4	6
岐阜県	92	115	9	1	52	53
愛知県	24	33	1	1	12	19
三重県	57	73	2	1	28	42
滋賀県	70	110	4		36	70
京都府	15	18	3	1	4	10
大阪府	8	11	2		2	7
兵庫県	116	149	6		61	82
奈良県	44	45	3	2	17	23
和歌山県	8	10	2			8
鳥取県	23	24			12	12
島根県	7	8			4	4
岡山県	4	4	1	1	1	1
広島県	14	17	3			14
山口県	6	11			2	9
徳島県	12	15	1	1	4	9
香川県	5	5	2		1	2
愛媛県	24	25	2		11	12
高知県	5	10	1		1	8
福岡県	33	45	4		9	32
佐賀県	8	12			1	11
長崎県	13	15		1	4	10
熊本県	10	14	3		4	7
大分県	27	31	1		5	25
宮崎県	18	22	2	1	7	12
鹿児島県	33	38			14	24
沖縄県	1	1			1	
合計	2,495	2,929	278	41	1,133	1,477

表3 目的別山岳遭難者

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	1,756	1,947	2,151	2,283	2,101	71.7%
登山	1,499	1,645	1,828	2,048	1,867	63.7%
ハイキング	139	150	188	106	110	3.8%
スキー登山	60	61	58	57	32	1.1%
沢登り	34	48	43	39	48	1.6%
岩登り	24	43	34	33	44	1.5%
山菜・茸採り	403	360	328	391	386	13.2%
その他	306	406	315	369	442	15.1%
観光	94	130	99	105	143	4.9%
作業	50	59	43	40	40	1.4%
溪流釣り	29	32	31	26	32	1.1%
写真撮影	21	20	20	21	21	0.7%
自然観賞	9	3	14	11	14	0.5%
山岳信仰	16	10	10	8	9	0.3%
狩猟	4	6	3	4	8	0.3%
スキー	83	146	87	57	72	2.5%
その他				85	92	3.1%
不明			8	12	11	0.4%
合計	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	100.0%

注：平成27年から、「その他」から「スキー」を分離計上。

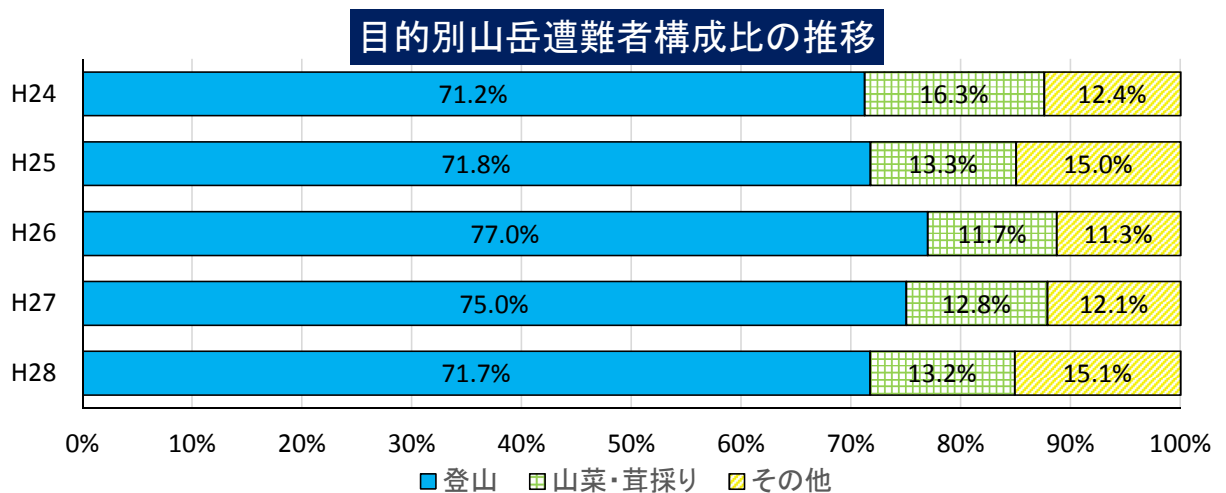
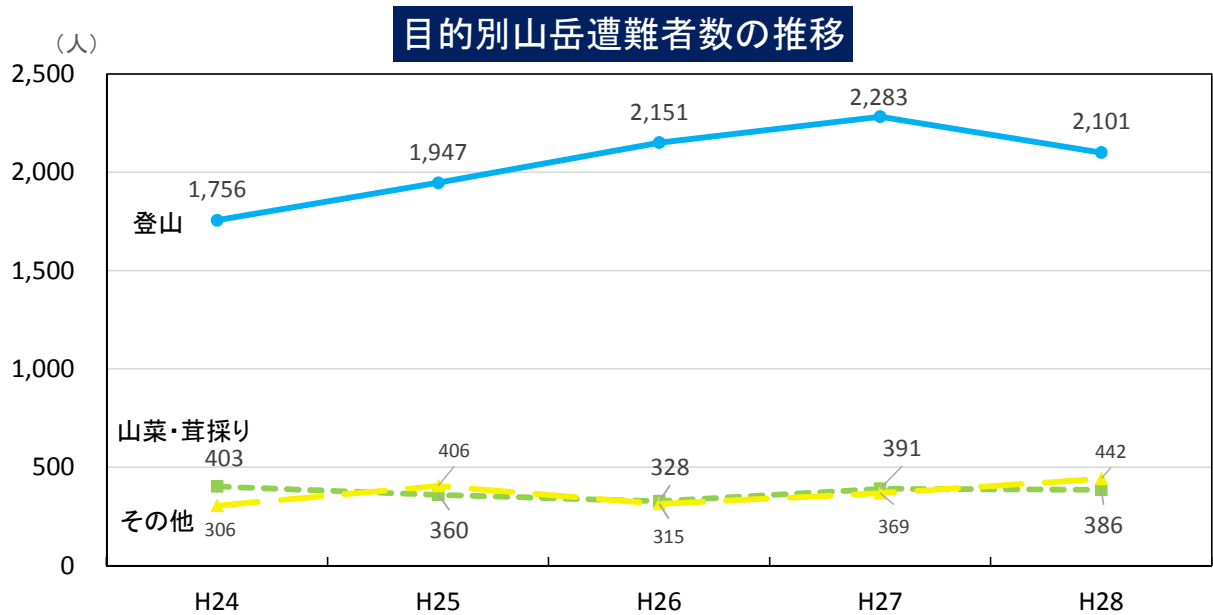
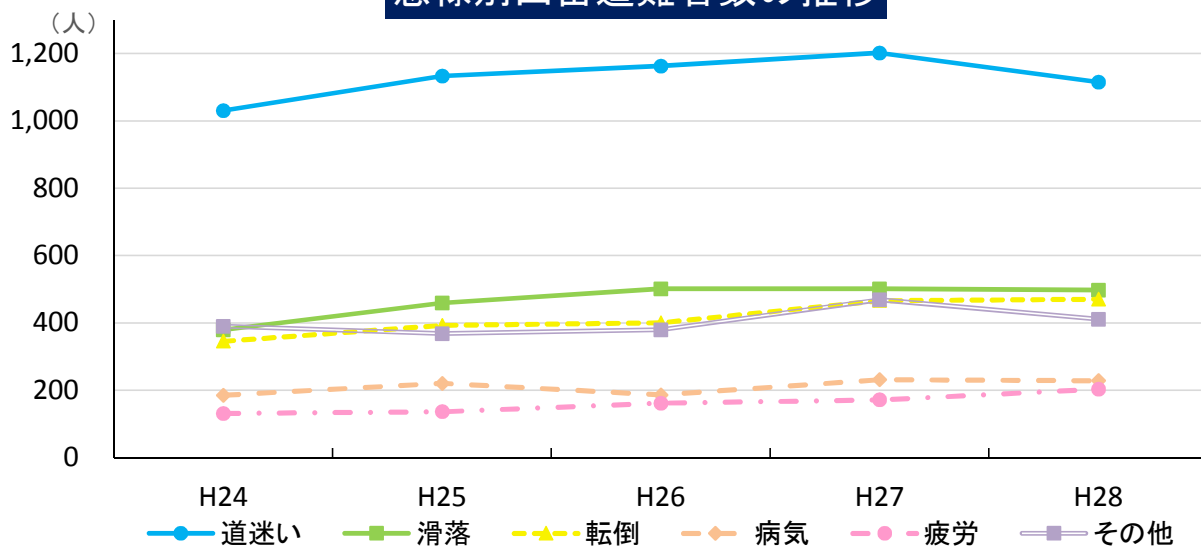


表4 態様別山岳遭難者

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	1,031	1,134	1,163	1,202	1,116	38.1%
滑 落	380	460	501	501	498	17.0%
転 倒	346	393	401	467	471	16.1%
病 気	186	221	187	232	229	7.8%
疲 労	132	137	162	172	204	7.0%
そ の 他	390	368	380	469	411	14.0%
転 落	93	73	90	107	108	3.7%
悪 天 候	37	64	42	70	18	0.6%
野生動物襲撃	34	42	48	43	42	1.4%
落 石	12	17	16	25	16	0.5%
雪 崩	8	20	9	17	8	0.3%
落 雷	5	3		1		
鉄 砲 水	18	7	2		2	0.1%
有 毒 ガ ス		1				
そ の 他	136	83	108	128	146	5.0%
不 明	47	58	65	78	71	2.4%
合 計	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	100.0%

態様別山岳遭難者数の推移



態様別山岳遭難者構成比の推移

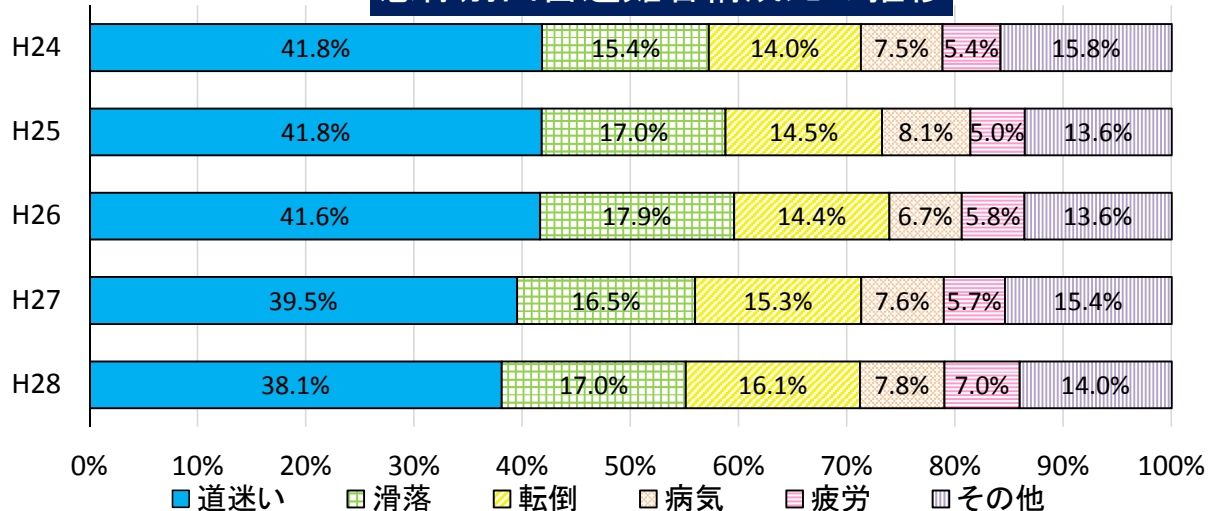
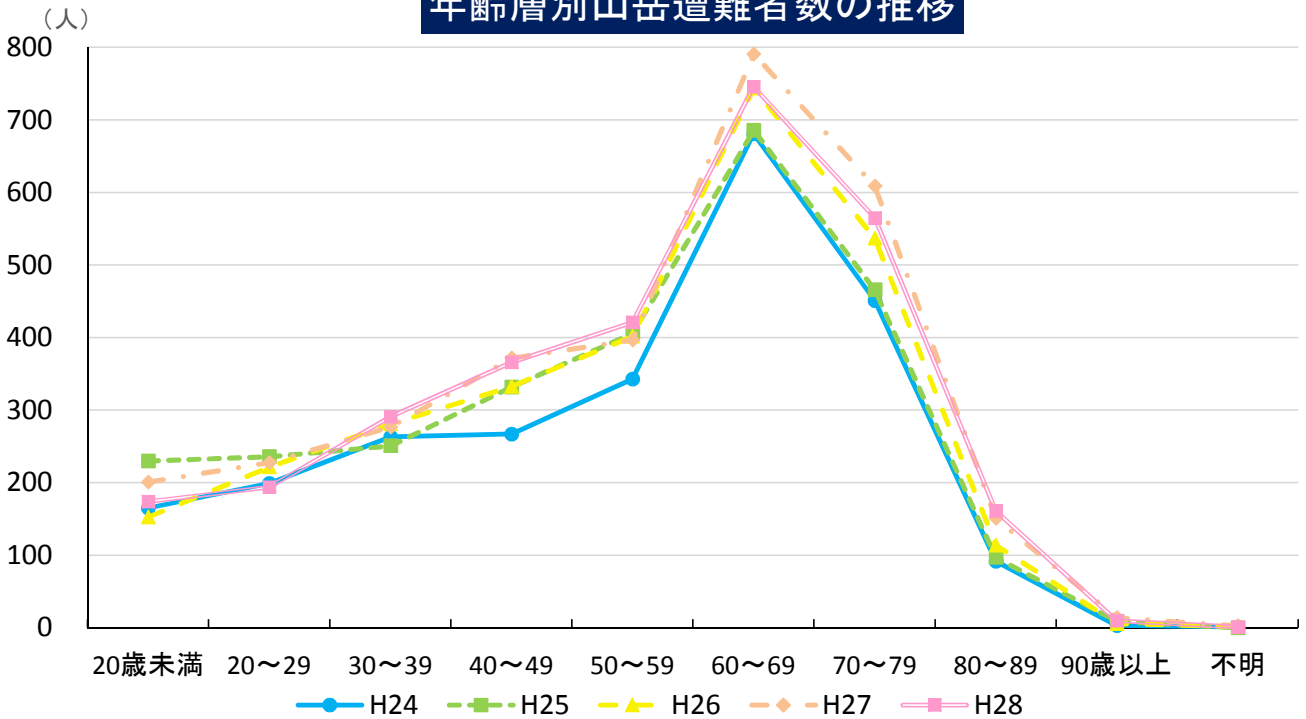


表5 年齢層別山岳遭難者

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	165	230	153	201	174	5.9%
20～29	199	236	222	228	194	6.6%
30～39	263	251	281	277	291	9.9%
40～49	267	332	333	372	366	12.5%
50～59	343	406	402	397	421	14.4%
60～69	681	686	744	791	746	25.5%
70～79	451	466	537	609	565	19.3%
80～89	92	97	114	151	161	5.5%
90歳以上	3	9	6	14	10	0.3%
不明	1		2	3	1	0.0%
合計	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	100.0%

年齢層別山岳遭難者数の推移



年齢層別山岳遭難者構成比の推移

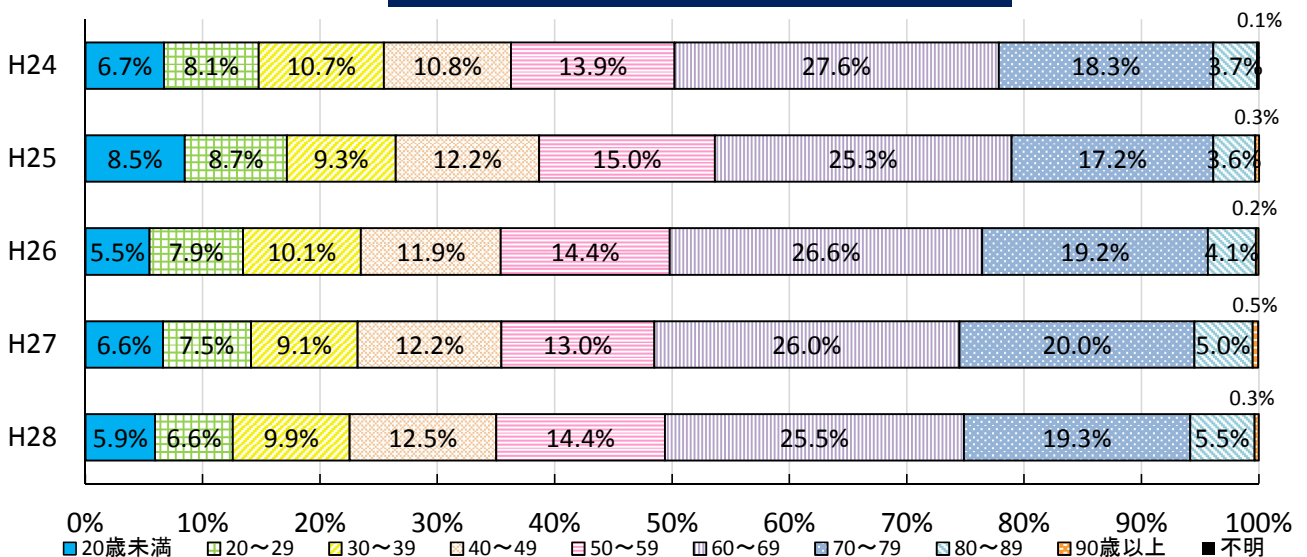


表6 年齢層別山岳遭難者(死者・行方不明者)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	2		3	3	4	1.3%
20～29	7	5	7	10	12	3.8%
30～39	20	22	13	15	13	4.1%
40～49	19	32	36	30	28	8.8%
50～59	41	57	36	43	46	14.4%
60～69	89	98	97	107	101	31.7%
70～79	80	81	85	86	76	23.8%
80～89	25	23	29	35	36	11.3%
90歳以上		2	3	6	2	0.6%
不明	1		2		1	0.3%
合計	284	320	311	335	319	100.0%

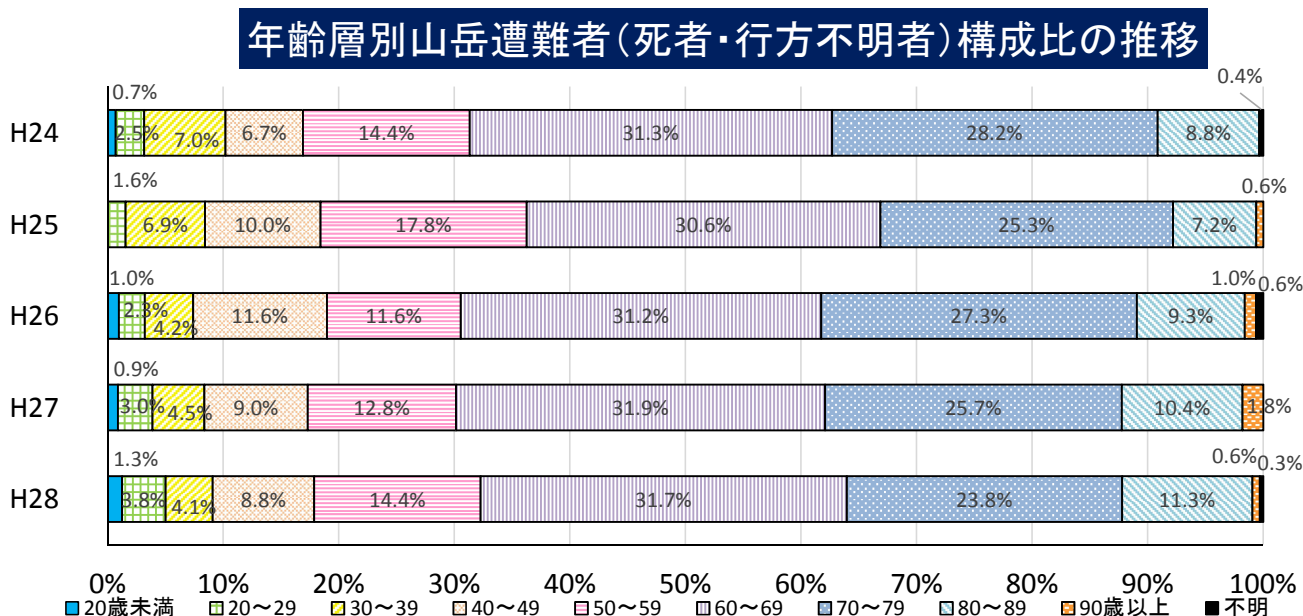
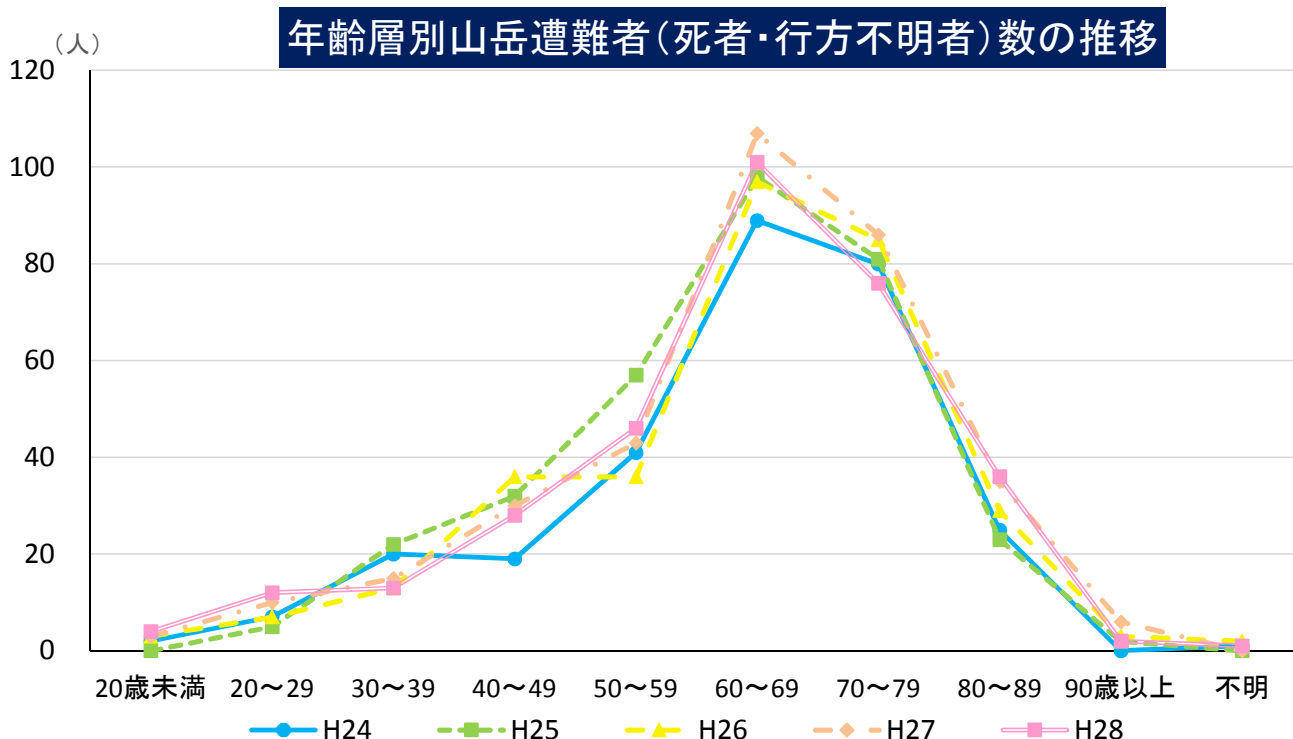
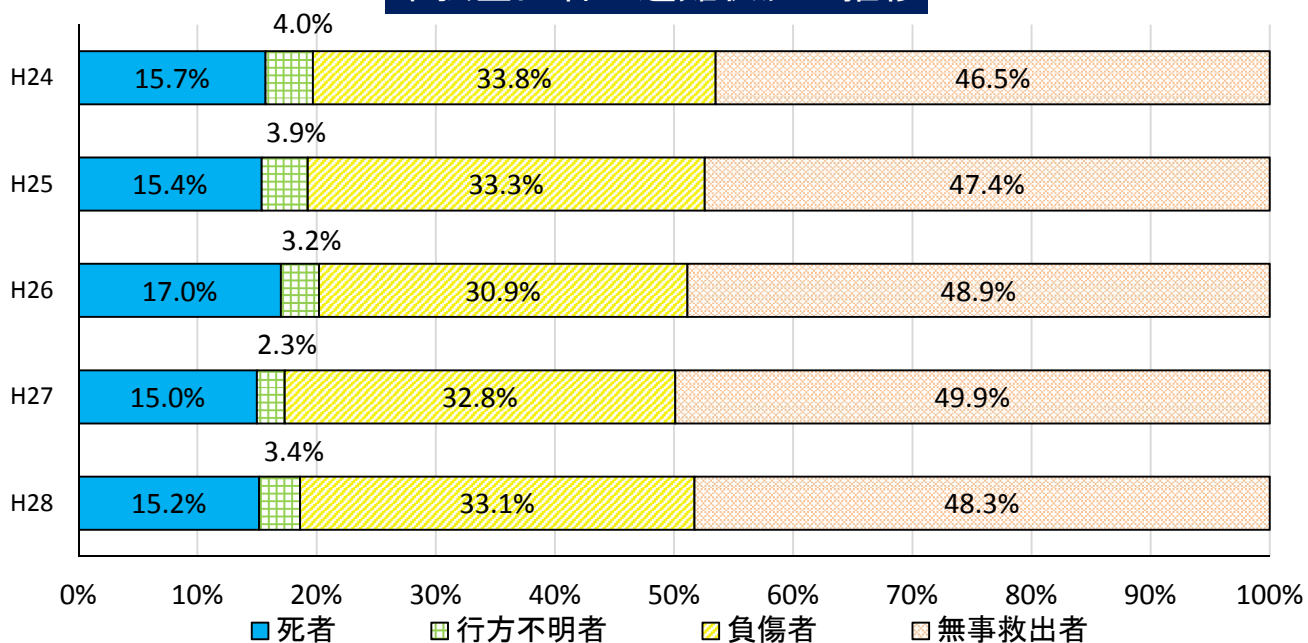


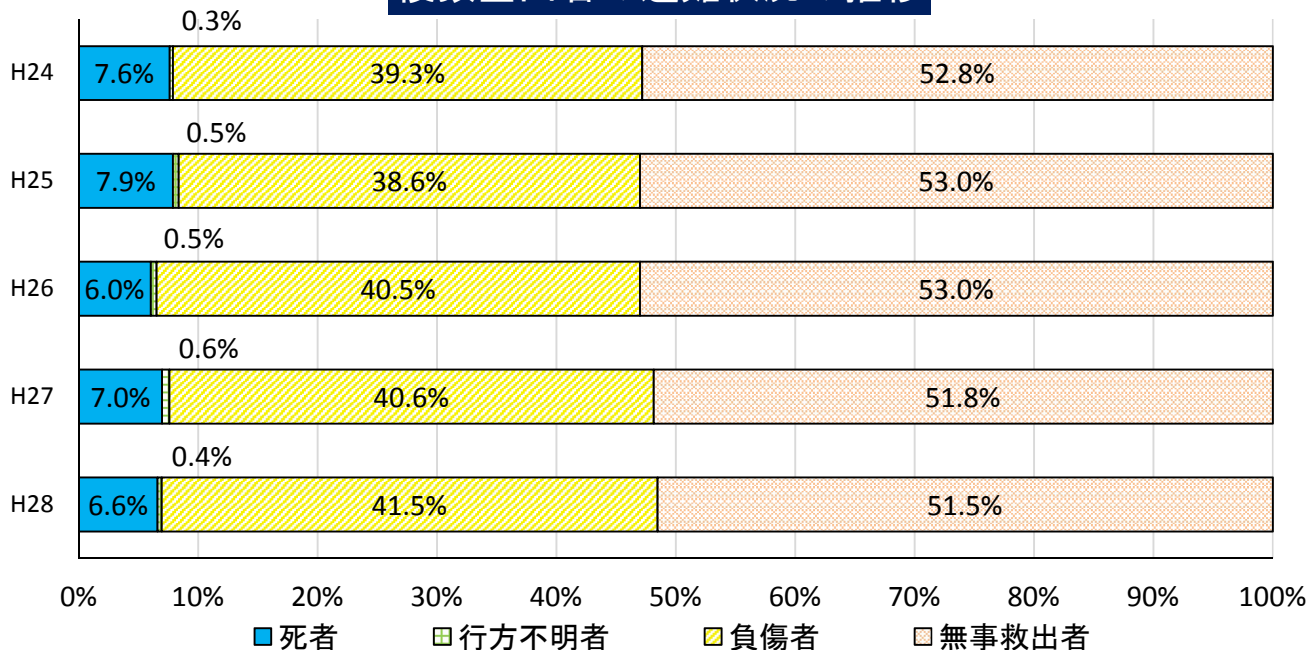
表7 単独登山者の遭難状況

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
遭難者	757	852	941	1,068	988	100.0%
死者・行方不明者	149	164	190	185	184	18.6%
死者	119	131	160	160	150	15.2%
行方不明者	30	33	30	25	34	3.4%
負傷者	256	284	291	350	327	33.1%
無事救出者	352	404	460	533	477	48.3%
全遭難者に占める単独登山中の遭難者の割合	30.7%	31.4%	33.7%	35.1%	33.7%	

単独登山者の遭難状況の推移



複数登山者の遭難状況の推移



注:この頁における「登山者」とは、目的が「山菜・茸採り」「観光」等の者も含む。

表8 通信手段の使用状況

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	件数	件数	件数	件数	件数	構成比
発生件数	1,988	2,172	2,293	2,508	2,495	
使用あり	1,380	1,548	1,728	1,922	1,907	76.4%
携帯電話	1,361	1,527	1,707	1,920	1,905	76.4%
無線	19	21	21	2	2	0.1%
使用なし	608	624	565	586	588	23.6%

注1: 通話エリア圏外、バッテリー切れ等は「使用なし」に含む。

注2: 携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。

通信手段の使用状況の推移

